

### 平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	えごまを用いた薬草栽培
事業主体 (連絡先)	南木曾薬草の会 代表 湯通堂 ちか子 (0264-24-0250)
事業区分	(6)オ その他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業 (6)イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	948,910 円 (うち支援金: 758,000 円)

#### 事業内容

木曾谷は薬草の宝庫である。増加する遊休荒廃農地を再生して薬草栽培を行うことで地域活性化の端緒とする。

- ・遊休荒廃農地の再生 (20a)
- ・薬草の試験栽培
- ・栽培棚・洗浄設備・水切り場・乾燥棚の設置
- ・農機具置き場製作
- ・薬草観察会と講演会開催
- ・えごまを用いた特産品の検討と試作



【再生農地での会員の共同作業】

#### 事業効果

- 1) 遊休荒廃農地を再生し、栽培地を拡大した。薬草の試験栽培を行ったところ生育は良好だった。成分検査にも合格し、大量栽培の体制が整った。共同作業には多くの会員の参加があり、交流も活発だった。
- 2) 製作した栽培棚に育苗箱を多層的に設置することができるようになり、栽培の作業効率が向上した。
- 3) 洗浄設備、水切り場、乾燥棚により薬草の乾燥が大量にできるようになった。
- 4) 薬草観察会と講演会は関心を集め、新たな地域住民や観光客の参加があり、質問も活発だった。地域の魅力に気づき、薬草に興味を持つ人や薬草の会の活動に賛同する人も増え、薬草の知識普及にも役立った。
- 5) えごまや他の薬草を用いた特産品を試作したところ好評で、更なる開発の要望があった。

#### 【目標・ねらい】

- ① 遊休荒廃農地の解消
- ② 薬草栽培の作業効率の向上
- ③ 洗浄・乾燥工程の効率化
- ④ 薬草の知識普及
- ⑤ 薬草を用いた特産品の検討

#### ※自己評価【A】

【理由】遊休荒廃農地を再生し、栽培地を拡大した。薬草は生育良好で成分検査に合格した。さらに設備も充実させ、大量栽培の体制を整えた。観察会と講演会は好評で、地域の魅力を再発見する人や、活動に賛同する人が増えた。

#### 今後の取り組み

継続的に遊休荒廃農地を再生し、薬草の栽培面積を広げる。薬草の種類を増やして試験栽培を行い、地域に適した薬草を選定していく。

地域住民と観光客対象に薬草観察会を行い、薬草や健康への関心を高めると共に、観光に役立てられるよう検討する。地域の特徴を活かした薬草の特産品開発を試みる。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある